



**特集号**



●大阪府応募総数 5,167作品	大阪府佳作賞	交野市立交野小学校6年	山岡 彩乃
小学生の部 3,562作品	枚方・交野地区保護司会		
中学生の部 1,605作品	会長賞	枚方市立蹠路東小学校6年	田村 翠那
●枚方市応募総数 737作品	優秀賞	交野市立交野小学校6年	山岡 彩乃
小学生の部 587作品		交野市立交野小学校6年	酌井 那菜
中学生の部 150作品		交野市立第三中学校3年	福山菜々美
		交野市立第三中学校3年	山戸 沙綾
		交野市立第三中学校3年	野木 彩音

「第70回社会を明るくする運動」の一環で行いました作文コンテストだけは、737作品もの多くの応募をいただきました。まずは困難な状況下、力強い後押しを下さった枚方・交野両市の教育委員会、募集に協力を頂いた学校の先生方や応募いただいた全ての児童・生徒の皆様には厚くお礼を申し上げます。

当コンテストは、小・中学生の皆様には「安心して暮らせる安全な社会づくり」をテーマにした、日常生活の体験で感じたことや普段から考えていることを発表していただく場です。例年なら上位入賞作品一、二点を定期発行の当会広報誌『みもり』での紹介にとどめておりましたが、今回は応募数の多さに加えて内容的にも優れた作品が多く、多くの方には是非一読してほしいとの思いで特集号を組み、優秀作品すべてを披露させていただく運びとなりました。

子供達の懸命さを汲み取っていただければ幸いです。

— 次年度は定期発行『みもり』で掲載予定 —

**「特集号」発行によせて**

広報部長 **芝田 実**

日頃は、枚方・交野地区の保護司会活動にご支援を賜り有り難うございます。

令和二年度におきましては、コロナ禍で人の集まる対外的事業は今までのところほとんどが実施できておりません。そんな中でも

大阪府 佳作賞

枚方・交野地区保護司会 優秀賞

## 見ためによらない人間関係

交野市立交野小学校 六年 山岡 彩乃

私は4、5年生の時、ぼつちやりしていて人から「ここ、おまえ通られへんのちゃう？」などとばかにされたり、体育で使うベルトのような物をクラスメイトからわざと短い物をわたされて、「うーわ、こいつ入ってないやん。やっぱデブやなあ。」と大声で言われて、みんなに笑われたりして、そのせいで友達がいらない日々が続いていました。今でもそれが心残りで、自分が好きではありません。

「私って一生こうなんかな。」ずつとばかにされて、つらいな。」と自分をせめていました。悪口を言われていたり、机へのラクガキ、とてもつらかったです。相談しても「気にすんな。」ばかり。そう言われても、気にしてしまっし、エスカレーターして行く。つらい日々でした。でも、そんなある日一すじの光が差ししました。そんな私を受け入れてくれる、友達ができたのです。私はその人と楽しい日々を過ごし、色々して来た人たちも私の笑顔を見て、いやがらせはいつしか無くなっていききました。

私はこのように人を見かけで判断したり、いやがらせをせず、その人の「個性」として受け入れ、同じ人間なので同じように接すれば、いじめ、差別などが無くなるはずだと思います。される側も「自分がなぜされているのか」「自分で解決するにはどうすれば良いのか」などと考えることも少しは必要だと思えます。そういった事を見つけた人は勇気を出して、注意をあげて下さい。勇気一つで人を救えるかもしれません。私は、勇気は剣にもたてにもなる。勇気があれば人はゆう者になれる

と思います。いじめをする人は小さな事をきつかけに人をいじめます。いじめは絶対にだめです。「たかがいじめ」などと思っている人は大まちがいです。その「いじめ」でだれかをきずつけている、だれかが命を落としているかもしれない。そう考えてみて、今自分が人にやっている事を反対の立場で、やられていると思ったら、どう思いますか？「つらい」「悲しい」「死にたい」「助けて」こう思うはずです。悪口だってそうです。例えば、今毎日遊んでいる人が実は自分の悪口を言っていたら？話したことも無いのに、外見だけで悪口を言っていたら？だれを信じればいいのか、分からなくなってしまう。これも注意が必要なのではないでしょうか。後でもだめ。今言う必要があるのです。味方さえいけばきつと心強いでしょう。ゲームでも、強いボスと戦う時、一人では不安ですよね。それと同じです。

いじめなどの非行を小さいものと思わないで下さい。一人ひとりが意識して生活し、ゆう者が増えれば、きつと非行などが減るはずですよ。いやになつたらにげればいい。やりたい事は全力でやる。自分の人生、自分の命だから、人に決められたり、人のせいで苦しめられたりするのには絶対にまちがっています。自分を信じて、いつも笑顔で、自分の道を行けばきつと楽しいことはいっぱいになると思います。非行はしてもいいことは一切ありません。むしろ悪いことしかありません。自分にも何かあるかもしれません。なので、絶対にやめた方がいいと思います。



枚方・交野地区保護司会 会長賞

## いじめを乗り越こえるために

枚方市立蹠蹠東小学校 六年 田村 翠那

最近、虐待とかいじめでつかまった人のニュースをテレビでよく見ます。私はいじめられていなくて、学校で友達がいじめられているのも見ないけれど、もし近くにいじめられている人がいたら見て見ぬふりはできないのですぐに助けに行くと思います。いじめられている人を見ても助けられない人がいます。助けたら今度は自分がいじめられるかもしれないからだと思います。私ももし助けたら今度は私がいじめられるかもしれないと思います。それでも私は助けます。自分がいじめられても、支えてくれる人や味方になってくれる人、頼りになる人、相談できる人がたくさんいるからです。

母が学生の時にしつこく嫌がらせをしている人がいたそうです。母が注意をすると、

「あいつ笑ってるやん。いじめられていると思ってるんやったら怒るはずやん。笑うわけないやん。」

と、言ったそうです。母にはいじめられている子の笑い顔は、笑うしかないという感じに見えたそうです。その子に、

「どうして止めてって言わへんの？」

「別にいいねん。がまんでできるから。」

と、言ったそうです。母は本当にそれでいいのかと腹が立ち、とても嫌な気持ちになったそうです。でもそれ以上何もできなかったそうです。何年たってもいじめの話を知るとその時いじめられていた子の困った

ような苦笑いを思い出すそうです。

いじめは本人だけでなく、周りの人にも影響します。もしいじめられた子が苦しくなって自殺してしまったら、家族も悲しくて死んでしまうかもしれません。その時は、いじめていた子はその家族までいじめてころしたことになります。友達も悲しい気持ちになります。思います。自分はいじめていると思っていなくても相手が「いやだ、やめて」と思ったらそこからはいじめになります。ひどくなる前にいじめている子がそれに気がついて謝れたらいいのと思います。周りの人も早めに声かけができたらいと思います。そのためには、みんな普段から相談できる友達を作っておくことが必要だと思います。どうするかは自分で決めることだけど、一人でかかえこまないですむように対処法は色々あります。

私は病気でよく頭が痛くなります。そんな時は苦しくて死んでしまいたいと思うときもあります。色々つらくて、自分ってなんで生きているのかわからなくなる時があります。そんな時、私は『現在から未来への自分に向けての手紙』を書きます。ノートに『その日にあった出来事を書く』時もあります。それを未来に読んだらどんなだろうと楽しみになってきました。少し気持ちが軽くなります。

いじめを乗り越こえるためには、いじめられている子も、その周りで怖くて動けなくなっている子も、自分を責めないでまず行動をしてみると一歩をふみ出せるかもしれません。自分がこれだ!と思うことを見つけて、それをしてみれば前向きになれるかもしれません。そして、テレビでやっていきたいいじめ虐待のニュースもいつかなくなればなっています。

## 枚方・交野地区保護司会 優秀賞

## 自分たちにも

交野市立交野小学校 六年 酌井 那菜

私は、社会を明るくするためには、何個か自分たちにもできることがあると思います。そのうちの二つ、紹介したいと思います。

一つ目は、あいさつです。私は、昨年まで地域の人とかにあいさつされても、だいたい適当にあいさつをしていました。六年生になってからは毎週はんのリーダーが、六人で集まって、今週のクラス目標を決めます。ある週の目標が「毎日クラス全員で、四百五十人とあいさつをしよう」という目標でした。自分のクラスは全員で三十人なので一人十五人以上とあいさつをすると、全員で四百五十人以上の人とあいさつができます。その目標が決まったとき私は、そんなに毎日十五人以上「おはよう」などのあいさつができるのかと思いました。だけど、目標を知った次の日の朝は、教室に入ったしゅんかん教室の中にいたクラスの人がドアにむかって、「おはよう」と言ってきました。なので私も「おはよう」と言いました。そして、次の週になって目標が変わっても、毎朝ほとんど、あいさつを続けています。私は、この目標ができて、地域の人からのあいさつを意識してかえすように、なりました。そして、あいさつをかえすことで、非行や犯罪をしても相手に、少しは、いい印象をもってもらえ、社会に復帰する一歩になると思います。なので、自分たちもあいさつされたら、かえすくせをつけたら、いいと思います。

二つ目は、困っている人がいたら、その人を助けたり、手伝ったりすることです。私は、これまで助けってもらったり、手伝ってもらったこと

も、あるし、逆に、助けたり、手伝ったりしたこともあり。つまり、両方とも経験したことがあるということです。なので、今から少し両方ともやって感じたことや思ったことについて書きたいと思います。まずは、助けてもらったことについて書きます。私は、三年生のとき、自転車のサドルの上において、支えてた手をすべらして、地面に落ちて、石がひざの中にさりました。そのとき、自転車もあって、強がって泣かずにいてパニックになったとき、自分はけいいたいを持っていてなくて、したら一緒に帰る予定だった友達がいいたいを持っていて自分のお母さんに電話してくれました。そして、私は家に帰れたので、友達が居なかつたらパニックで困っていたので助けてもらえてよかったです。そのとき、私はとてもうれしかったです。

次は、助けたときのことを書きます。ある日の朝、登校班での出来事です。一年生が遅れて歩いているとき、早めに歩いていたら、こけてしまって、そのときに血が出ていたのでばんそうこうをあげました。そしたら一年生がいたそうだったけど、ゆっくり歩き始めたのでよかったです。なので、困っている人がいたら、何か少しでも、やれることをすることがいいと思います。こうすることで、相手の相談にのったりして、犯罪や非行をしようとしても、やっぱりこれはやってはならないことだと気づき、やめる人が出てくることが多くなり、社会が少しずつ明るくなるかもしれません。

このように、今二つの自分たちにできることを紹介しましたが、この二つ以外にも自分たちにできることがあると思います。時間があつたら、考えてみてください。



## 枚方・交野地区保護司会 優秀賞

## 言葉がもたらす「心」への影響

交野市立第三中学校 三年 福山 菜々美

SNSは使い方間違えれば人の命を奪ってしまうこともある。大切な命を守るために一人一人がSNSの使い方を考えるべきだ。

テレビをつけると「SNSの誹謗中傷による事件や自殺」という言葉をよく目にする。また、動画投稿サイトや書き込みサイトでも誹謗中傷の言葉が多くなっている。SNSの利用者数が年々増加し、交友関係が広がるなどのメリットがある。しかし、一方でトラブルや個人情報流出などデメリットも多く存在する。私はなぜ誹謗中傷が起こってしまうのか疑問に思った。

まず私は「批判」と「誹謗中傷」の違いについて調べてみることにした。「批判」は人の言動、仕事などの誤りや欠点を指摘し、正すべきであるとして論じることである。一方「誹謗中傷」は根拠のない悪口を言いふらして他人の名誉を損なう行いのことである。つまり、根拠に基づかずに「良くない」「つまらない」などの言葉を浴びせたり人格否定を行ったりすることは「批判」ではなく「誹謗中傷」にあたる。私は、これらの意味を理解していない人が多いのではないかと、また、理解はしていても批判をしたつもりが誹謗中傷になり人の心を傷つけてしまっているのではないかと思った。

その次に私は匿名サイトについて調べてみた。匿名とは何らかの行動をとった人物が誰であるのか分からない状態を指す、つまり、誰でも気軽に書き込めるということだ。最近ではこれを利用して、悪口を書く人が多くなっている。また、小中学生の間でも教育や友人に対して、誹謗

中傷しているという事例もあるようだ。

これらのことから、まず、私は匿名で書き込めるサイトをなくすべきだと思う。顔も合わせない、どこの誰かもわからないという特性から無配慮に書き込む人も多いだろう。しかし、身元が特定されるようになれば匿名であっても書き込む人は少なくなると考えられる。

そして、「誹謗中傷をやめよう」その言葉だけでなく具体的に事例を挙げたり、批判との違いを説明したりするなど、より詳しく誹謗中傷の恐ろしさを知ってもらわなければならない。言葉一つが誰かの心を傷つける。誰かの精神を追いつめる。それが凶器になってしまう。しかし、一人一人が気を付ければ大切な命も守られるはずだ。

SNSという広い範囲だけでなく、私たちの日常の中にも起こり得ることもある。会話アプリで近くにいないでもコミュニケーションがとれるのは便利なことだ。しかし、表情などが分からないため誤解が生まれてしまうことも出てくるだろう。お互いを傷つけ合わないように面と向かって話すことができれば、SNS内のコミュニケーションによるいじめも減らされると思う。

便利な世の中になり私たちが気をつけなければならないことが沢山ある。思いやりのない発言には価値が全くない。言葉一つで簡単に命を奪ってしまう。しかし、言葉はだれかを傷つけるためにあるのではない。自分がかけた何気ない言葉が誰かを救っているかもしれないのだ。だから私は誤解のないよう面と向かって伝えたい。そして、誰かを救える言葉を、励ます言葉を、勇気づける言葉をかけられる人になりたい。一人一人が少しずつ優しくなることが社会を明るくする運動の一つになると信じている。そして、自分も周りも大切にしていきたいと思う。

枚方・交野地区保護司会 優秀賞

## 「自分は大丈夫」と思わないで

交野市立第三中学校 三年 山戸 沙綾

「もしもし、ああおれ。」

私の父は、祖母との電話でいつもこう言います。「お父さん、いつもおばあちゃんとの電話で言ってるよね。」と気づいた頃は何も思っていないでしたが、最近になって「この電話の仕方は危ない」と思うようになりました。なぜなら『オレオレ詐欺』に引っかかってしまう可能性があるからです。

『オレオレ詐欺』とは、親族、警察、弁護士などを装い、親族が起こした事件・事故に対する示談金などを名目に、金銭などをだまし取る詐欺です。犯人が親族になりすましている場合の具体的な手口は、被害者に「おれだけど……。 」などと言って電話をかけ、被害者が聞き返した名前を名乗って後日、再度被害者に電話をかけて「今すぐお金が必要だ。」と話を切り出してきます。そして被害者は、息子や孫が大変な状況になっていると信じ込んでしまい、犯人の言うがままにお金を振り込んだり、送ったりしてしまうのです。

先日、祖母の家に行ってみんなで話をしていたとき、ちょうど警察庁の『家族の絆でSTOP!オレオレ詐欺』というテーマのテレビCMが流れていたのです。

「お父さんの電話の仕方、おばあちゃんがオレオレ詐欺に引っかかりそうな気がするんだけど。」

と今まで思っていたことを話しました。すると母も、

「確かに危ないよね。」

と言って共感してくれました。この時は、違う話が変わってしまったて詳しくは話せなかったのですが、今度祖母の家に行ったときは、家族で話し合って合言葉を決めて、『オレオレ詐欺』対策を考えなければならぬと思います。

警察庁の調査によると、『オレオレ詐欺』の被害者の約九割が、「自分は被害に遭わない」と思っていたそうです。また、犯人は事前に多くの情報を入手してから、だましの電話をかけてくるので、さらに注意が必要です。そして『オレオレ詐欺』に引っかかるのを防ぐために、警察庁は「『携帯の番号が変わった』と電話がかかってきた場合、慎重に会話し、必ず元の番号に電話をする。家族と普段から連絡を取り合い、詐欺の対策について話し合ったり、合い言葉を決めたりする」など呼びかけています。『オレオレ詐欺』をはじめとする特殊詐欺は、誰にでも起こる危険性があるという認識を持ち、日頃から備えておくことが大切です。

今の日本は、殺人、いじめ、虐待、自殺など暗いニュースが多く、戦争は無いけれどもまったく平和ではないと思います。このような他人を傷つけたり、自分を傷つけたりする行為、犯罪や非行のない明るく平和な日本、そしてみんなが笑顔で暮らせる世界になるよう、心から願っています。



アカルイーネちゃんは、「社会を明るくする運動」のマスコットキャラクターです。

枚方・交野地区保護司会 優秀賞

犯罪者にも目を向けて

交野市立第三中学校 三年 野木 彩音

私は、学校の授業などで未成年で飲酒や喫煙や万引きなどはしてはいけないと聞きます。きっと私以外の学校でもそのような事は教えられてみんなが知っていることだと思います。でもそこから私は個人的に犯罪などについて考えたことはありません。今回、作文を書くことになって初めて個人的に犯罪について考える機会ができました。そして私は、どうして犯罪を起こすことは悪いことだとみんな分かっているはずなのに起こってしまうのか、という疑問を持ちました。そこでインターネットを使って調べました。その結果、私は、学校の授業で学んだことを思い出しながら、新しく二つのことについて気づくことができました。

まず、一つ目は、犯罪を犯してしまう犯罪者の人には何かの理由があつて罪を犯してしまうということだと思います。犯罪者の動機について調べると、生活が苦しくなっていたり、容疑者と被害者の人間関係がうまくいっていなかったり、軽い気持ちで始めたことが抜け出せなくなってしまうと自分の中で葛藤して罪を犯してしまう人がいるということが分かりました。一方で遊び心や少しスリルを味わいたいと思つて罪を犯す人がいるということも知りました。

二つ目は、私たちは罪を犯した人たちを見捨ててはいけないということです。これは、気づいたことの一つ目からまた気づくことができます。犯罪者の中には自分の中で葛藤して罪を犯してしまう人がいま

す。その人たちの中で必ず猛反省をして罪を償つて社会に貢献しようとしている人がいると思います。一度罪を犯したからといってそういう人たちまで見捨ててしまうと、また葛藤して罪を犯してしまつたり、子どもたちに犯罪について伝える内容がうすまると思います。私は学校で薬物について警察の方に教わったとき、実際に過去に薬物を使用して後悔している人からの手紙を警察の方が代読しているのを聞きました。そのとき私は、薬物は自分が想像していた何倍も怖くて、とても後悔するぐらい自分の人生を狂わしてしまふということが強く印象に残り、いまでもそのときを思い出すとぞつとします。

これらのことから私は、罪を犯すことはとても悪いことだし、人を傷つけることだけど、そこで私たちが犯罪者に目を向けることを終わらすのではなく、それからの反省して自分を変えようとしている人や反省はしているけど自分の人生を諦めようとしている人にも目を向け、救いの手を差し伸べることが大切だと考えました。また一人で葛藤するのは良くないと考えることもできました。私も周りを他人事として見ずに、友人や家族の相談に乗つて救いの手を差し伸べたいと思います。

枚方・交野地区保護司会 佳作賞の紹介

- |        |       |        |       |        |        |        |       |         |       |         |       |         |      |        |       |
|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|------|--------|-------|
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 岩崎 咲奈 |
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 稲垣 優里 |
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 登日みなみ |
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 池尾 史紋 |
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 安田 好花 |
| 交野小・六年 | 岡本茉莉香 | 交野小・六年 | 松口菜々子 | 交野小・六年 | 三田村かなた | 交野小・六年 | 永江 ゆあ | 津田南小・五年 | 後藤 結伊 | 東香里小・四年 | 内藤 愛裡 | 蹠陀東小・六年 | 直塚 漣 | 開成小・五年 | 山口 優大 |

# お知らせ

定期発行の『みのり』が休刊中のため、令和二年の「保護司の栄誉及び動静」は当特集号に掲載致します。

## 保護司の栄誉

☆令和二年春の褒章

◎藍綬褒章 板床 美榮

☆大阪更生保護大会表彰

◎知事感謝状 中川 るみ

◎全国保護司連盟

理事長表彰 新島佳世子

仲谷 慶子

山本 光茂

◎近畿地方更生保護委員会

委員長表彰 高島 叔孝

大路 栄三

井本 由之

上澤 留吉

中川 光朗

原田 武夫

船戸 和夫

木崎 龍彦

富田 芳一

◎近畿地方保護司連盟

会長表彰 上田 哲也

赤穂美智子

荻野 益男

加藤 修

◎大阪保護観察所所長表彰

永年 山本 光茂

永年 岩本 昌治

永年 仲谷 慶子

永年 中島 秀芳

田尻 文雄

三島 孝之

◎大阪府保護司会連合会

会長表彰 橋 隆

森 均

柿木 隆

藤田 卓伸

石橋多代子

北川 大祐

大槻 清己

高橋 龍城

家族功労 大槻 清己

家族功労 高橋 龍城

## 保護司の動静

◎新任保護司

◇令和二年一月二五日付

濱田 充代(樟葉西校区)

◇令和二年五月二五日付

藤本 正行(氷室校区)

小林 健人(山田校区)

◎退任保護司

◇令和二年五月二四日付

井上 清文(名誉会員)

◇令和二年九月二四日付

板床 美榮(名誉会員)

## 新任です！

小林 健人

委嘱を受け責任の重さを感じます。明るい社会づくりを目指してまいります。



濱田充代



藤本正行



小林健人

## 退任にあたって

出会いの大切さ

井上 清文

平成八年五月に保護司として委嘱を受けて二十四年、多くの方々に支えられ、無事に定年退任を迎えました。

例えば、環境や境遇の違い、対象者、保護司、監察官、その他多くの人々との出会いがあり、出会った皆様お一人お一人から色々な事を学ばせて頂きました。

今後ともご交誼、ご指導の程宜しくお願い致します。

## 振り返れば

板床 美榮



昨年九月二十四日付で無事保護司を退任いたしました。思うようにいかなかった対象者との面接も今では楽しい思い出の一コマとなっています。二十二年間総務部一筋で勤める事ができたのも、皆様の暖かい支えがあったからこそ、と感謝の気持ち一杯です。

諸先輩が築き上げてこられた枚方・交野地区保護司会の良き伝統を更に充実した会に発展される事を心より祈りました。本当にありがとうございました。

## 編集後記

「コロナ禍」で、広報誌「みのり」は休刊しておりますが、「第70回社会を明るくする運動」の作文コンテストの応募者の気持ちに敬意と感謝の気持ちを込めて特集号を組みました。

ある学校では校長先生が授業をして臨んでくださったと耳にしております。新型コロナウイルス感染症の影響で、授業時数確保のため夏休みが短くなりました。このような状況の中、各校の取り組みのおかげで昨年より3倍増の応募がありました。大変喜んでいました。有り難うございました。

作文を書きながら社会の問題点に目を向け「明るい社会とは……」「自分でできることは……」と真剣に向き合って頂いたに違いありません。その意義は大きいと感じながら、慎重に審査しました。これを機会に、その担い手を目指してもらえると期待もし、応援しております。

(審査員 一同)